

畑作・野菜・花き生産情報 第4号

令和6年7月18日
青森県「農林水産力」強化本部

- ◎ ほ場やハウス周辺の排水対策を徹底しよう！
- ◎ ながいもは、新しいもの長さを確認して適期に追肥しよう！
- ◎ 施設では換気や遮光をこまめに行うなど、温度管理を徹底しよう！
- ◎ 野菜、花きの品質保持のため、涼しい時間帯に収穫しよう！
- ◎ 病害虫の発生に注意し、早期発見・早期防除に努めよう！

畑作物

1 大豆

(1) 生育状況

- ・生育は、草丈、葉数ともに平年を上回っており、おおむね順調である。
- ・食葉性害虫の被害が散見される。

表－1 大豆の生育状況（7月10日現在）

場所	年次	は種期 (月日)	出芽期 (月日)	草丈 (cm)	主茎長 (cm)	葉数 (枚)	分枝数 (本)
農 林 総 合 所 研 究 所 (黒 石 市)	本年	5/24	6/4	34.8	18.7	6.1	0.7
	(平年差・比)	(1日早)	(1日早)	(86%)	(87%)	(+0.1)	(-0.8)
	平年	5/25	6/5	40.4	21.6	6.0	1.5
野 菜 研 究 所 (六 戸 町)	本年	5/25	6/5	52.4	29.2	8.1	2.1
	(平年差・比)	(10日遅)	(11日遅)	(103%)	(105%)	(+0.6)	(+0.4)
	平年	5/15	5/25	50.8	27.7	7.5	1.7
藤 崎 町 (中 野 目)	本年	6/7	6/14	38.8	-	6.2	-
	(平年差・比)	(5日遅)	(2日遅)	(110%)	-	(+0.9)	-
	平年	6/2	6/12	35.3	-	5.3	-
つ が る 市 (木 造 土 滝)	本年	5/26	6/7	29.6	-	5.4	-
	(平年差・比)	-	-	-	-	-	-
	平年	-	-	-	-	-	-
十 和 田 市 (切 田)	本年	6/9	6/15	54.6	-	7.3	-
	(平年差・比)	(2日遅)	(1日遅)	(117%)	-	(+0.8)	-
	平年	6/7	6/14	46.6	-	6.5	-
	前年	6/5	6/12	53.2	-	7.0	-

注) ①品種は「おおすず」

②平年値は農林総合研究所が過去17か年、野菜研究所が過去17か年、藤崎町が過去13か年、十和田市が過去3か年の平均値。つがる市は本年から設置のため平年値及び前年値無し。

(2) 今後の管理

ア 排水対策

- ・大雨などで滞水しないよう、明きょを手直しして排水溝へ接続するなど排水対策を徹底する。

イ 中耕・培土

- ・コンバイン収穫時の収穫ロスや土砂による汚粒発生を防止するため、培土高は一定に保ち、生育が遅れているほ場では、土寄せを浅くする。

ウ 雑草対策

- ・雑草の発生が多いほ場では、中耕・培土の回数を増やしたり、大豆の生育期に使用可能な除草剤を散布する。

エ 病虫害防除

- ・べと病、アブラムシ類及び食葉性害虫などの病虫害は、発生状況を確認しながら適期防除に努める。

オ 追肥

- ・登熟期間の気温が高く、追肥の効果が期待できる津軽地域では、窒素成分で10a当たり5～8kgの開花期追肥を行う。ただし、茎葉が過繁茂で倒伏のおそれがある場合は行わない。

野菜

(根菜類)

1 ながいも

(1) 生育状況

- ・地上部、地下部の生育は、地域やほ場によるバラツキが見られるもののおおむね順調である。
- ・病虫害は、ナガイモコガ、コガネムシ類、カメムシ類の発生が見られる。

表-2 ながいもの生育状況 (7月10日現在)

調査地点	年次	植付期 (月日)	萌芽			つるの ネット頂 到達日 (月日)	7月10日				
			始め (月日)	期 (月日)	萌芽 揃期 (月日)		つる長 (cm)	茎葉重 (g)	いも長 (cm)	いも重 (g)	いも径 (mm)
野菜 研究所	本年 (平年差・比)	5/24 (1日早)	—	—	6/21 (1日早)	—	235 (122%)	65.8 (142%)	13.5 (102%)	5.7 (100%)	7.5 (94%)
	平年	5/25	—	—	6/22	7/16	192	46.3	13.2	5.7	8.0
	前年	5/25	—	—	6/23	7/14	207	57.6	15.0	6.7	8.2
五戸町 上市川	本年 (平年差・比)	5/20 (15日遅)	6/20 (15日遅)	6/22 (14日遅)	6/24 (13日遅)	—	—	—	11.2 (62%)	3.0 (34%)	6.9 (83%)
	平年	5/5	6/5	6/8	6/11	7/6	—	—	17.9	8.7	8.3
	前年	5/2	6/10	6/12	6/14	7/7	—	—	16.7	7.3	7.6
東北町 滝沢平	本年 (平年差・比)	5/11 (3日遅)	5/19 (7日早)	5/25 (8日早)	5/29 (7日早)	6/29 (10日早)	—	—	18.4 (137%)	11.8 (169%)	11.6 (141%)
	平年	5/8	5/26	6/2	6/5	7/9	—	—	13.4	7.0	8.2
	前年	5/5	5/25	5/29	6/1	—	—	—	15.6	6.2	8.6

注) ①平年：野菜研は令和3～令和5年の3か年の平均値
五戸町、東北町とも平成26～令和5年の10か年の平均値。
なお、東北町は令和6年度から担当農家を変更した(萌芽期のデータを除き、過去のデータの蓄積あり)。
②種子：野菜研は園試系6の1年子(90～110g)ガンク切除(植付30日前)、五戸町は庄司系の2年子(120～150g)ガンク切除、東北町は庄司系の1年子(100g)頂芽付

③栽植様式：野菜研は畦幅120cm×株間24cm (3,472株/10a)、五戸町は畦幅120cm×株間22cm (3,788株/10a)
 東北町は畦幅110cm×株間24cm (3,788株/10a)

(2) 今後の管理

ア 追肥

- ・追肥は遅れると収量や品質低下の原因となるので、適期に行う。
- ・追肥を開始する目安は、つる長と新しいも長を確認して判断し、特に切いもは、つるの伸長が1年子や2年子より遅れ気味となるので、必ず新しいも長を確認する。

① 早植栽培（頂芽付1年子、4月下旬～5月上旬植付け）

- ・第2回目以降の追肥は、第1回目の追肥から12～14日おきを目安に行う。
- ・追肥量は、1回当たりで窒素、加里とも成分量で10a当たり5kgを基準とする。

② 普通栽培（頂芽切除、5月下旬～6月上旬植付け）

- ・第1回目の追肥時期は、子いもでは植付後45～55日頃、切いもでは植付後55～65日頃、つる長が200～220cmで主づるの先端がネットの8分目から頂部に達し、新しいも長が10～15cmとなった頃を目安とする。
- ・第2回目、第3回目の追肥は、第1回目から10日おきを目安に行う。
- ・追肥量は、1回当たりで窒素、加里とも成分量で10a当たり5kgを基準とし、生育が旺盛な場合には追肥量を減らす。

表－3 追肥方法

作 型 (植付時期)		早植栽培 (4月下旬～5月上旬)	普通栽培 (5月下旬～6月上旬)	
種いも		頂芽付・1年子	頂芽切除・子いも	切いも
追肥 開始 の 目安	植付後日数	60日前後	45～55日頃	55～65日頃
	新しいも長	5cm前後	10～15cm	
	つる長	150cm前後 (ネットの5分目程度)	200～220cm (ネットの8分目～頂上部)	
追肥間隔等		12～14日おきを目安に3回 1回目：6/下～7/上 2回目：7/中～7/下 3回目：7/下～8/上	10日おきを目安に3回 1回目：7/中～7/下 2回目：7/下～8/上 3回目：8/上～8/中	
		遅くとも8月20日には終了する。		
追肥量		1回当たり窒素成分で5kg/10a以内とする。		

イ 病虫害防除

- ・葉渋病、炭そ病、ナガイモコガ、アブラムシ類の発生に注意し、早期発見・早期防除に努める。
- ・採種ほ場ではウイルス病の伝搬を防ぐため、10日程度の間隔でアブラムシ類の防除を徹底する。

ウ 風水害対策

- ・台風など強風や大雨に備え、ネットや支柱を補強し、明きょを手直しして排水溝へ接続するなどの排水対策を徹底する。
- ・植溝が穴落ちした場合は、速やかに埋め戻す。

2 ばれいしょ

(1) 生育状況

- ・いも数は平年をかなり下回るが、いも重は平年をやや上回り、生育は順調である。
- ・アブラムシ類の発生が見られる。

表－4 ばれいしょの生育状況（7月10日現在）

調査地点	年次	植付期 (月日)	萌芽期 (月日)	着らい期 (月日)	開花期 (月日)	7月10日		
						草丈 (cm)	いも数 (個/a)	いも重 (kg/a)
三沢市 三沢	本年 (平年差・比)	3/25 (6日早)	5/3 (2日遅)	5/22 (1日早)	5/31 (5日早)	-	3,810 (90%)	399 (105%)
	平年	3/31	5/1	5/23	6/5	76.8	4,222	381
	前年	3/25	4/24	5/19	6/3	59.7	5,000	428

注) ①平年：平成26～令和5年の10か年の平均値

②品種：メイクイン

③作型：マルチ栽培

④その他：7月6日に茎葉処理を実施したため7月10日の草丈のデータはなし。

(2) 今後の管理

ア 収穫

- ・収穫は、茎葉が黄変し、枯れ上がってから10日後位に行く。
- ・掘り取ったいもは、速やかに風通しの良い冷暗所に収納し、厚く積まないで広げておく。
- ・早掘栽培では、収穫の5～7日前に茎葉を刈り取るか抜き取り、いもの表皮をコルク化させてから収穫する。

イ 病害防除

- ・曇雨天が続くと、疫病が急激に増加するため、収穫まで期間がある場合は、7～10日おきに降雨の合間をぬって防除を行う。

3 ごぼう

(1) 生育状況

- ・は種作業の遅れにより、草丈は平年を大幅に下回っているものの、葉数は平年並まで増加し、生育は順調である。
- ・病虫害は、ハムシ、ハモグリバエ等による食害、黒斑細菌病が散見される。

表－5 ごぼうの生育状況（7月10日現在）

調査地点	年次	は種期 (月日)	7月10日	
			草丈 (cm)	葉数 (枚)
三沢市 三沢	本年 (平年差・比)	5/16 (15日遅)	28.1 (41%)	4.0 (103%)
	平年	5/1	68.2	3.9
	前年	4/28	91.8	4.6

注) ①平年：平成26～令和5年の10か年の平均値

②品種：柳川理想

(2) 今後の管理

ア 病虫害防除

- ・黒斑細菌病、黒条病、アブラムシ類の発生に注意し、早期発見・早期防除に努める。

イ 追肥

- ・追肥を予定している場合は、生育を見ながら適切に行う。

4 夏だいこん

(1) 生育状況

- ・は種作業は平年並に行われ、出芽は良好である。

(2) 今後の管理

ア 病虫害防除

- ・軟腐病、キスジノミハムシの防除を徹底するとともに、コナガ、アオムシなどの害虫の早期発見・早期防除に努める。

イ 排水対策

- ・台風や大雨に備え、明きょを手直しして排水溝へ接続するなど、排水対策を徹底する。

(果菜類)

5 夏秋トマト（雨よけ栽培）

(1) 生育状況

- ・生育はおおむね順調で、6月末から収穫が始まっている。
- ・一般ほ場では葉先枯れやガク枯れのほか、花落ち、尻腐れ果等の発生が一部で見られている。
- ・病虫害は、灰色かび病、アザミウマ類、トマトキバガが散見される。

表-6 トマトの生育状況（7月10日現在）

調査地点	年次	定植期 (月日)	1段花房		3段花房		5段花房		7段果房		収穫期	
			開花期 (月日)	着果数 (個)	開花期 (月日)	着果数 (個)	開花期 (月日)	着果数 (個)	開花期 (月日)	着果数 (個)	始め (月日)	終わり (月日)
中泊町 八幡	本年 (平年差・比)	5/9 (12日遅)	5/18 (11日遅)	4.3 (116%)	6/8 (11日遅)	4.0 (125%)	6/25 (11日遅)		7/7 (7日遅)		6/29 (8日遅)	
	平年	4/27	5/7	3.7	5/28	3.2	6/14	2.7	6/30	2.4	6/21	11/12
	前年	4/28	5/17	3.6	6/6	2.6	6/21	2.6	7/6	2.9	6/27	11/11
三戸町 斗内	本年 (平年差・比)	5/5 (8日早)	5/21 (6日早)	4.6 (119%)	6/12 (5日早)	3.1 (92%)	6/27 (7日早)				7/2 (8日早)	
	平年	5/13	5/27	3.9	6/17	3.4	7/4	2.6	7/23	2.6	7/10	10/29
	前年	5/10	5/17	4.3	6/5	4.0	7/1	2.5	7/20	3.3	7/1	10/20

注) ①平年：中泊町は、令和6年度から担当農家に変更（前担当農家は五所川原市）となったため、平年、前年ともに参考値、三戸町は平成26～令和5年の10か年の平均値

②品種：中泊町はりんか409（台木：キングバリア）、三戸町はりんか409（自根）

(2) 今後の管理

ア 追肥・かん水

- ・追肥及びかん水は、水分要求量が高まる午前8～9時頃に行う。
- ・液肥の場合、1回当たりの追肥量は、窒素成分で10a当たり0.5kgを目安とし、

1～3日おきぐらいに行う。曇雨天が続く場合は、肥効が早い硝酸態窒素の多く入った肥料を使用する。

- ・かん水量は、1株当たり1.5リットルを基準に、天候を見ながら毎日～3日おきで行うが、予想最高気温が28℃以上の日は、水分要求量が高いので1株当たり2.0リットルとする。
- ・支柱誘引やUターン誘引で無摘葉とする場合は、生育が進むにつれて葉の繁茂量が多くなるので、かん水と追肥をそれぞれ慣行より1～2割程度増やす。
- ・高温が続くと、着果不良が発生したり、裂果しやすい果実ができるので、通路にかん水する。ただし、土壌の乾燥が著しい場合に、大量に通路かん水すると軟果が発生するので、最初は深さ1～2cmまで湿る程度にかん水し、2～3日経過してから深さ約5cmまで湿る程度にかん水する。

イ 高温対策

- ・ハウス内の高温に注意し、サイドの開放と併せて、肩換気やツマ面換気も行う。
- ・生長点のしおれが見られる場合は、日中の暑い時間帯に遮光、遮熱資材でハウスを覆う。
- ・通路及び畦の肩まで白黒マルチを設置し、地温の上昇を抑制する。

ウ 病虫害防除

- ・ハウス内の湿度が高かったり、草勢が低下すると、灰色かび病、葉かび病が蔓延しやすくなるので、計画的に防除するとともに、次の対策を行う。
 - ①換気を行う
 - ②通路にマルチを敷く
 - ③株元の通風を良くするため、収穫が終了した果房の下葉を摘葉する
 - ④摘果、誘引、追肥などの作業を適期に行い、草勢維持に努める
- ・農薬による防除は、薬剤耐性菌が出現しないよう、作用性の異なる薬剤を組み合わせるローテーション散布を行う。
- ・今後、アザミウマ類、タバコガ類の発生が多くなることや、トマトキバガの発生に注意し、早期発見・早期防除に努める。

6 メロン

(1) 生育状況

- ・トンネル栽培（4月下旬～5月上旬定植）の生育は順調である。
- ・病虫害は、つる割病が散見される。

表ー7 メロンの生育状況（7月10日現在）

調査地点	年次	定植期 (月日)	着果期 (月日)	7月10日			収穫期 (月日)
				主づる葉数 (枚)	平均着果節位 (節)	平均着果数 (果/株)	
つがる市 木造	本年 (<small>平年差・比</small>)	4/27 (6日早)	6/14 (±0日)	24.2 (94%)	14.9 -	3.1 (89%)	
	平年	5/3	6/14	25.7	-	3.5	7/28
	前年	4/28	6/11	27.8	13.7	3.7	7/26

注) ①平年：平成26～令和5年の10か年の平均値、平均着果節位は、令和4年度から調査項目に追加したため平年値はなし

②品種：タカミ（台木：ダブルガードパワー）

(2) 今後の管理

ア 高温対策

- ・遮光資材を活用し、高温・強日射による萎れや果実の日焼けを防ぐ。

イ 適期収穫

- ・収穫は、着果後の日数や外観のほか、試し切りを行い、糖度・肉質の状況を確認して総合的に判断し、果温が低い朝夕に行う。
- ・収穫が遅れると発酵果や裂果が発生し、貯蔵性の低下につながるので十分注意する。

ウ 病害虫防除

- ・べと病、黒斑細菌病、アブラムシ類などの発生に注意し、早期発見・早期防除に努める。
- ・やむを得ず連作した畑では、雨天が続くとつる枯病が発生しやすいので、防除を徹底する。

(葉茎菜類)

7 ねぎ

(1) 生育状況

- ・生育はおおむね順調である。
- ・病害虫は、さび病、葉枯病、アザミウマ類、ハモグリバエ類の発生が見られる。

表－8 ねぎの生育状況（7月10日現在）

調査地点	年次	は種期 (月日)	定植期 (月日)	7月10日		収穫期 (月日)
				草丈 (cm)	茎径 (mm)	
八戸市 是川	本年 (<small>平年差・比</small>)	12/25 (5日遅)	4/4 (11日遅)	83.0 (82%)	25.5 (118%)	
	平年	12/20	3/24	101.6	21.7	7/15
	前年	11/26	3/19	96.7	21.7	7/20
十和田市 洞内	本年 (<small>平年差・比</small>)	1/23 (4日早)	4/2 (11日早)	72.1 (80%)	16.4 (76%)	
	平年	1/27	4/13	89.6	21.5	8/21
	前年	1/20	4/1	87.5	20.7	8/19

注) ①平年：八戸市は平成26～令和5年の10か年の平均値

十和田市は令和2年～令和5年の4か年の平均値

②品種：夏扇パワー

(2) 今後の管理

ア 病害虫防除

- ・べと病、黒斑病等の発生に注意し、早期発見に努め、各病害虫に効果的な薬剤を選択し、防除を徹底する。

イ 培土・追肥

- ・生育の進み具合に応じて追肥・培土を行う。
- ・最終培土は、太さ20～22mm、収穫20～30日前を目安に行う。

花 き

1 夏秋ギク

(1) 生育状況

- ・生育はおおむね順調だが、アブラムシ類が散見される。

表－9 夏秋ギクの生育状況（7月10日現在）

場 所	年次	品種名	定植期	草丈 (cm)	葉数 (枚)	備 考
新 郷 村	本年 (平年差・比)	精の一世	4月21日 (1日遅)	107.8 (99%)	58.9 (101%)	1本仕立て
	平年	精の一世	4月20日	109.1	58.3	1本仕立て
	前年	精の一世	4月17日	97.7	55.3	1本仕立て
五所川原市	本年 (平年差・比)	岩の白扇	4月25日 (10日遅)	103.4 (93%)	39.7 (94%)	2本仕立て
	平年	岩の白扇	4月15日	110.8	42.4	2本仕立て
	前年	岩の白扇	4月20日	117.3	46.4	2本仕立て

注) 平年は新郷村が令和3～令和5年の3か年、五所川原市が平成30～令和5年の6か年の平均値

(2) 今後の作業

ア 病虫害防除

- ・白さび病は、発らい期から発生しやすくなるので、換気をこまめに行うなど予防に努める。
- ・高温・乾燥条件により害虫の発生が増えるので、早期発見・早期防除に努める。

イ 収穫

- ・2～3分咲きを目安に採花するが、出荷先により切り前が異なるため事前に確認する。
- ・採花は涼しい時間帯に行い、切り口を乾かさないようにする。早朝に採花する場合は、朝露に濡れたまま収穫すると荷傷みの原因となるので乾いてから行う。

2 秋ギク

(1) 生育状況

- ・苗の生育は良好で、定植後の株も順調に生育している。病虫害の発生は見られない。
- ・現在、定植や摘心作業が行われている。

表－10 秋ギクの定植状況（7月10日現在）

場 所	年次	品種名	定植期	栽植本数 (本/a)	定植方法	備 考
五所川原市	本年 (平年差・比)	神馬	7月9日 (3日遅)	4,065 (101%)	挿し苗	2本仕立て
	平年	神馬	7月6日	4,018	挿し苗	2本仕立て
	前年	神馬	7月10日	4,200	挿し苗	2本仕立て

注) 平年：平成22～令和5年の平均値

(2) 今後の作業

ア 定植後の管理

- ・ハウス内が高湿・過湿にならないように換気するほか、循環扇、寒冷しゃ等を活

用し、適正な温湿度管理に努める。

- ・活着まではほ場を過度に乾かさないようにこまめにかん水する。
- ・活着後から発らい前までは、ほ場の乾燥状況を見ながら十分にかん水する。

イ 病害虫防除

- ・夏秋ギクに準ずる。

3 トルコギキョウ

(1) 生育状況

- ・生育はやや早まっており、7月下旬から8月上旬の収穫期となる見込み。
- ・病害虫の発生は見られない。

表-11 トルコギキョウの生育状況（7月10日現在）

場 所	年次	品種名	定植期	草丈 (cm)	節数 (節)
青 森 市	本年	ひこ星	4月4日	68.2	13.1
	前年	ひこ星	4月6日	53.4	12.7
黒 石 市	本年	ボンボヤージュスイートピンク	5月4日	45.8	14.4
	前年	ボンボヤージュスイートピンク	5月5日	38.8	14.4

注) ①青森市の平年値：前年から品種が変更されたため、平年値なし

②黒石市の平年値：令和4年度から担当農家に変更されたため、平年値なし

(2) 今後の作業

ア かん水

- ・発らいまでは根の張りをよくするため、乾湿の差をつけて管理する。発らい後はしおれない程度にかん水を減らし軟弱徒長を防ぐ。

イ 温度管理

- ・ハウス内が高温・過湿にならないように換気するほか、循環扇、寒冷しゃ等を活用し、適正な温湿度管理に努める。

ウ 側枝等の整理

- ・不要な側枝は早めに摘み取る。また、頂花らい（1番花）は、早めに除去し、上位節から発生する分枝の伸長を促す。

エ 病害虫防除等

- ・アザミウマ類やヤガ類の発生が多くなる時期なので、早期発見・早期防除に努める。
- ・チップバーンの発生しやすい品種やほ場では、必要に応じてカルシウム剤を葉面散布する。

オ 収穫

- ・涼しい時間帯に収穫し、速やかに鮮度保持剤による前処理を行う。

畑作・野菜・花き生産情報第5号は令和6年8月20日発行の予定です。

◎『日本一健康な土づくり運動』展開中 ～元気な作物は健康な土が育みます～

土壌診断に基づく適正施肥や土壌改良は、施肥コストの低減にもつながります。

効率よく堆肥を使い、堆肥の肥料成分を考慮した化学肥料の低減に努めましょう！

緑肥を活用し、作物の生育に好適な土壌環境づくりを心がけましょう！

◎令和6年度青森県農薬危害防止運動展開中（6月1日～8月31日）

- 1 農薬を使用する際は、必ず最新の登録内容を確認し、農薬は適正に使用しましょう。

○農林水産省「農薬情報」

https://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_info/

○農林水産省「農薬登録情報提供システム」

<https://pesticide.maff.go.jp/>

- 2 飛散防止に努め、住宅地等の近隣で使用する際は、事前に周囲に知らせましょう。
- 3 クロルピクリン剤など土壌くん煙剤を使用する際は、必ず厚さ0.03mm以上又は難透過性の被覆資材で被覆しましょう。
- 4 市販の除草剤のうち、「農薬ではない除草剤（農薬ではない、非農耕地専用などと記載）」は、農作物等の栽培管理に使用してはいけません。
- 5 農薬は使い切りを徹底し、河川等には絶対に捨ててはいけません。

◎食中毒を防ぐため、生産段階から「野菜の衛生管理」に努めましょう。

- 1 栽培に使用する水の衛生管理や水質の確保に努めましょう。
- 2 家畜ふん堆肥は、水分調整や定期的な切り返しを行い、十分発酵させましょう。
家畜ふん中の菌の死滅には、55℃以上の温度が3日以上続いている状態が必要です。
堆肥の製造工程では、この温度条件を確認しましょう。
- 3 家畜ふん堆肥を野菜栽培に使用する際は、製造工程や熟成度を確認しましょう。確認できない場合には、堆肥施用から収穫までの期間を、収穫部位が土壌から離れた野菜は2か月、土壌に近い野菜は4か月空けましょう。
- 4 農機具や収穫容器等は清潔な状態を保ち、汚水の流入や野生動物の侵入防止等、栽培環境の整備にも努めましょう。
※ 野菜の衛生管理指針、家畜ふん堆肥の生産・利用の注意点はこちら
→https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/nourin/noon/yasai_eiseikanri.html



◎備えあれば、憂いなし！ 農業保険を活用しましょう！

自然災害や価格下落など、農業経営を取り巻く様々なリスクに備えるため、自分の経営にあった農業保険（国などが掛金の一部を補助する公的保険制度）を活用しましょう。

- 1 自然災害リスクをカバーしたい方
農業共済（農作物共済・畑作物共済・園芸施設共済）は、全ての農業者を対象に、米、麦、畑作物、農業用ハウスなどが自然災害によって受ける損失を補償します。
※ナラシ対策や野菜価格安定制度等を利用することもできます。
- 2 様々なリスクをカバーしたい方
収入保険は、青色申告を行っている農業者を対象に、自然災害や価格低下だけではなく、農業者の経営努力では避けられない収入減少を広く補償します。
※詳しくは、お近くの農業共済組合までお問い合わせください。

◎熱中症予防運動を展開中です（6月1日～8月31日）

農林水産分野での熱中症による救急搬送された方は、近年増加傾向にあります。暑い季節は、農作業中に熱中症になるリスクが大きくなりますので、安全な農作業に努めるとともに、体調に気を付けましょう。

<ポイント>

- 1 高温時の作業はなるべく避けましょう。
 - 2 こまめな休憩と水分・塩分補給を行いましょ。
 - 3 1人での作業はできるだけ避けましょ。
 - 4 熱中症対策グッズ（帽子・空調服等）を活用しましょ。
 - 5 立ちくらみやめまい等の熱中症の疑いを感じたら、作業を中止し、体調の回復に努めましょ。
- 詳しくは「農なび青森 熱中症対策」で検索してください。

◎ツキノワグマ出没警報発令中!!（6月25日～11月30日）

農作業は、1人での作業を避け、「ラジオやクマよけスプレーを携帯する」、「食べ物や空の容器はすぐに片付ける」、「農作物残渣は適正に処理する」など、人身被害の防止に努めましょ。

◎環境にやさしい農業に取り組んで、みどり認定を受けましょう

みどりの食料システム法に基づき、土づくりと化学肥料・化学農薬の使用低減などに取り組む農業者の認定制度【みどり認定】が始まっています。認定を受けると、設備投資の税制優遇や国庫補助事業の採択優遇などのメリットがあります。

申請・お問合せは、最寄りの地域県民局地域農林水産部にご相談ください。

https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/nourin/noen/midori_kihontekinakeikaku.html

☆青森県総合防除計画を策定しました☆

県では、植物防疫法に基づく国の「総合防除基本指針」に即して、化学農薬のみに頼らない病虫害防除を行うための計画「青森県総合防除計画」を定めました。農作物の高品質生産とコスト低減に向けて、みんなで総合防除に取り組みましょう。



<https://www.nounavi-aomori.jp/farmer/archives/8140>

連絡先	農産園芸課
	稲作・畑作振興グループ
県庁内線	5073
直通	017-734-9480
	野菜・花き振興グループ
県庁内線	5076
直通	017-734-9481
